



▲写真 CS-003
敬川八幡宮跡のチシャノキ
(写真・Web 画像)



▲写真 CS-004
山内のチシャノキ
(写真・Web 画像)



▲写真 CS-005
矢掛のチシャノキ
(写真・Web 画像)



▲写真 CS-006
光明寺のチシャノキ
(写真・Web 画像)

38, スイカズラ科の巨木 Caprifoliaceae

38-A サンゴジュ(珊瑚樹)の巨木 スイカヅラ科ガマズミ属 Viburnum awabuki



◀写真 SG-001 日本一のサンゴジュ
向雲寺の珊瑚樹
群馬県高崎市下横町 3-1
株周 M5.17m(0.3m 2015) 樹高 8m A 評価
本堂前に立ち、奇麗に剪定されている。根元で大小 11 分岐する。



39, マンサク科の巨木 Hamamelidaceae

■マンサク科の巨木は以下に分類する。

- A イスノキの巨木 B フウの巨木

39-A イスノキ(柞の木)の巨木 マンサク科イスノキ属 Distylium racemosum

■イスノキの巨木評価基準

- A 幹周おおむね 5.5m 以上の単幹樹、同等評価のイスノキの巨木。
B 幹周おおむね 4~5.5m の単幹樹、同等評価のイスノキの巨木。
C B 評価以下のイスノキの巨木。

■主なイスノキの巨木

2015年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 都道府県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
B	庫藏寺のイスノキ 写真 IS-001	5.0m	20m	三重県鳥羽市河内丸山 539	県
B	檜葉のイスノキ 写真 IS-002	4.9m	20m	宮崎県東臼杵郡南郷村上渡川	なし
B	八山岳のイスノキ 写真 IS-003	4.5m	20m	鹿児島県肝属郡錦江町馬場	なし
B	勝下のイスノキ 写真 IS-004	4.2m	9.5m	茨城県鉦田市勝下	市
B	清龍寺のイスノキ 写真 IS-005	4.0m	20m	福岡県古賀市薦野清滝	県
C	八幡神社のイスノキ 写真 IS-006	3.9m	16m	静岡県下田市吉佐美	市
C	豊橋公園のイスノキ 写真 IS-007	3.6m	16m	愛知県豊橋市今橋町 3-1	なし



▲写真 IS-001
庫藏寺のイスノキ
(写真・Web 画像)



▲写真 IS-002
かしば
檜葉のイスノキ
(写真・Web 画像)



▲写真 IS-003
八山岳のイスノキ
(写真・Web 画像)

▼写真 IS-004
勝下のイスノキ
(写真・Web 画像)



▼写真 IS-005
清龍寺のイスノキ
(写真・Web 画像)



▼写真 IS-006
八幡神社のイスノキ
(写真・Web 画像)



▼写真 IS-007
豊橋公園のイスノキ
(写真・Web 画像)



39-B フウ(楓)の巨木 マンサク科フウ属 Liquidambar formosaana

■フウの巨木評価基準

- A 幹周おおむね 5m 以上の単幹樹、同等評価のフウの巨木。
- B 幹周おおむね 2~5m の単幹樹、同等評価のフウの巨木。
- C B 評価以下のフウの巨木。

■主なフウの巨木

2015 年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 都道府県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
B	清泉女子大のフウ 写真 HO-001	3.0m	20m	東京都品川区東五反田 3-16-21	区
B	皇居のフウ 写真 HO-002	2.5m	15m	東京都千代田区千代田 1-1	なし
B	泳宮のフウ 写真 HO-003	2.5m	15m	岐阜県可児市久々利	なし



▲写真 HO-001
せいせん
清泉女子大のフウ
(写真・Web 画像)



▲写真 HO-002
こうきょ
皇居のフウ
(写真・門田裕一)



▲写真 HO-003
くくりのみや
泳宮のフウ
(写真・Web 画像)

21-F タイサンボク(泰山木)の巨木 モクレン科モクレン属 Magnolia grandiflora



写真 TB-001 日本一のタイサンボク
やなぎだ
柳田のタイサンボク

タイサンボクは 北米原産で、日本には 1873(明治 6)年に渡来した。この原木は新宿御苑に残っていて、新宿門を歩いてしばらく進んだ所にあり、単幹樹で幹周 M2.6m(1.3m 2010)・(右写真)・評価 B。水戸市に幹周 4.4m の分岐幹のタイサンボクが報告されているが、確認できなかった。

石川県鳳珠郡能登町柳田のタイサンボクは、竹内家の門標になっているもので、衆議院議員も務めた先々が 1892 年に東京から苗木を持ち帰ったといわれ、樹齢 117 余年。幹周 M3.13m(1.3m 2010) 樹高 15m・評価 B。地上 1.4m で 2 分岐する。主幹は 6m で 2 分岐し、側幹は 2m で 2 分岐する。現在知られているタイサンボクでは最大で、幹は苔むし実に見事な風格あるタイサンボクである。



40, グミ科の巨木 Elaeagnaceae

※ナツグミ・アキグミの巨木があるが、本書では分類せず、グミの巨木とする。

40-A グミ(菜萁)の巨木 グミ科グミ属

■グミの巨木評価基準

- A 幹周おおむね 3m 以上の単幹樹、同等評価のグミの巨木。
- B 幹周おおむね 2~3m の単幹樹、同等評価のグミの巨木。
- C B 評価以下のグミの巨木。

■主なグミの巨木

2015 年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 都道府県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
B	曙のグミ 写真	M2.36m(分岐 0.2m 2010)	10m	茨城県稲敷郡阿見町曙 151-106	県
B	大久保のナツグミ 写真	M2.2m(分岐 1.2m 2012)	10m	群馬県吾妻郡中之条町五反田乙 343-1	県
B	下横場の大グミ 写真	株周 2.3m	7m	茨城県つくば市高野台 36-1	県



◀写真 GM-001 日本一のグミ

あけぼの 曙のグミ

曙のグミはナツグミである。地上 0.3~1m で 3 分岐する樹形。設置された看板によると、主幹は 2.36m で分岐幹はそれぞれ 0.57m と 0.43m。主幹と記載された幹は、最も大きな幹ではなく、根元辺りの幹周のこと。よって、M 式表記では幹周 M2.36m(分岐 0.2m)となる。主幹は幹にコブが多く、老木の風格が漂い、側幹二本は比較的新しい幹のようだ。



▲写真 GM-002

おおくぼ 大久保のナツグミ

民家の裏斜面にあり、1981 年の台風で倒れたまま保存され、曙のグミと甲乙付けがたい大きさである。1.5m で 3 分岐し、分岐幹はそれぞれ 1.86m(主幹)、1.17m(北幹)、1.0m(南幹)。



◀写真 GM-003

下横場の大グミ

根元で 2 分岐する樹形
(写真・Web 画像)

41, ミソハギ科の巨木 Lythraceae

■ミソハギ科の巨木は以下に分類する。

- A サルスベリの巨木
- B シマサルスベリの巨木

41-A サルスベリ(百日紅)の巨木 ミソハギ科サルスベリ属 Lagerstroemia indica

■サルスベリの巨木評価基準

- A 幹周おおむね 3m 以上の単幹樹、同等評価のサルスベリの巨木。
- B 幹周おおむね 2~3m の単幹樹、同等評価のサルスベリの巨木。
- C B 評価以下のサルスベリの巨木。

■主なサルスベリの巨木

2015 年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
A	中村のサルスベリ 写真 SS-001	M3.12m(分岐 0.3m 2014)	8m	長野県長野市桜字中村	県
A	法善寺のサルスベリ 写真 SS-002	M3.04m(分岐 0.5m 2008)	8m	山梨県南アルプス市加賀美 3509	市
B	馬瀬口の大サルスベリ 写真 SS-003	M1.94m(0.5m 2012)	10m	富山県富山市馬瀬口天満宮	県
B	神子畑のサルスベリ 写真 SS-004	2.57m(根元 2 分岐)	8m	兵庫県朝来市佐囊 1826-1	市
B	大石屋敷跡のサルスベリ 写真 SS-005	3.3m(2 分岐合計)	10m	東京都八王子市松木 1491	市
B	田畑の百日紅 写真 SS-006	4.5m(5 分岐合計)	8m	岐阜県関市上之保鳥屋市田畑	市
C	明専寺のサルスベリ 写真 SS-007	M1.0m(0.7m 2008)	7m	石川県宝達志水町菅原	なし
C	茂林寺のサルスベリ 写真 SS-008	株周 M2.8m(0.2m 2014)	8m	群馬県館林市堀工町 1570	なし
C	浄経寺の連理サルスベリ 写真 SS-009	M1.94m(0.5m 2012)	9m	新潟県佐渡市中興	なし



◀写真 SS-001 日本一のサルスベリ

中村のサルスベリ

幹周 2.92m 記載のサルスベリであるが、2014 年の調査で M3.12m あることが判明し、日本一になった。太い主幹上部で 6 分岐する。コブが多く古木の風格がある見事なサルスベリである。墓標として植えられたものか。



◀写真 SS-003

馬瀬口の大サルスベリ

天満宮参道入り口に立つ珍しい単幹のサルスベリである。



◀写真 SS-002 旧日本一のサルスベリ

法善寺のサルスベリ

法善寺は境内の広いお寺で、自然園が広がり、円形の噴水池などもあり、和洋折衷の庭園は実に爽快だ。サルスベリは奥の方にあり、地上0.5mで2分岐し、主幹は1.5mで4分岐、西幹は1.3mで3分岐する。損傷はほとんどなく、大きく枝葉を広げている。主幹にはコブや凹凸が多く、古木の風格が漂い、実に見事なサルスベリである。



▲写真 SS-004

神子畑のサルスベリ

(写真・Web画像)



▲写真 SS-005

大石屋敷跡のサルスベリ

(写真・Web画像)



▲写真 SS-006

田畑の百日紅

(写真・Web画像)



▲写真 SS-007

明専寺のサルスベリ

花が見事で、枝張りは10mに及び、垂れるように花を付ける。



▲写真 SS-008

茂林寺の百日紅

狸で有名な寺の境内にあり、分岐幹が上部で連理する。根元で8分岐している。



▲写真 SS-009

浄経寺の連理サルスベリ

狸で有名な寺の境内にあり、分岐幹が上部で連理する。根元で8分岐している。

41-B シマサルスベリ(島百日紅)の巨木

ミソハギ科サルスベリ属
Lagerstroemia subcostata

■調査が進んでいないので、評価は控える。

■主なシマサルスベリの巨木

2015年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 都道府県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
	千代田 C.C のサルスベリ 写真 SSS-001	M4.37m(1.3m 2010)	10m	茨城県かすみがうら市上佐谷 877-6	なし
	ザ・ゴルフクラブ龍ヶ崎のサルスベリ 写真 SSS-002	不明	不明	茨城県龍ヶ崎市泉町字原口	なし
	湯湾岳のシマサルスベリ 写真 SSS-003	不明	不明	鹿児島県大島郡宇検村	なし
	田平の滝のシマサルスベリ 写真 SSS-004	不明	不明	鹿児島県奄美市名瀬	なし



◀写真 SSS-001 日本一のシマサルスベリ

千代田 C.C のサルスベリ

クラブハウスの中庭に立ち、地上2mで2分岐する。主幹は6mで、側幹は4mで切断され、細い幹が水平に何本も出る。もともと某寺院にあったものだが、経営者の方が巨樹が好きで、是非と言う事で譲り受けたとうかがった。移植する時に、活着を促すために先端を切断したものだろう。



▲写真 SSS-002
ザ・ゴルフクラブ
竜ヶ崎のサルスベリ
(写真・Web画像)



▲写真 SSS-003
湯湾岳のシマサルスベリ
(写真・Web画像)



▲写真 SSS-004
田平の滝の
シマサルスベリ
(写真・Web画像)

42, フトモモ科の巨木 Myrtaceae

42-A ユーカリノキの巨木 フトモモ科ユーカリノキ属 Eucalyptus globulus

※オーストラリア東南部原産の樹木で、成長が早いことから小学校の校庭に植えられ、巨木が小学校にあるのはそのため。

■主なユーカリノキの巨木

2015年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 都道府県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
C	桜井小学校のユーカリ 写真 UK-001	4.7m	25m	愛媛県今治市郷桜井	なし
C	牟礼小学校のユーカリ 写真 UK-002	4.6m	20m	香川県高松市牟礼町大町 1560	なし
C	広島城跡の被爆ユーカリ 写真 UK-003	4.2m	9.5m	広島県広島市中区基町 21-1	なし
C	国立福井病院のユーカリノキ	3.6m	20m	福井県敦賀市桜ヶ丘町	なし



◀写真 UK-001 日本一のユーカリノキ
桜井小学校のユーカリ
運動場の片隅に立つ。



◀写真 UK-002
牟礼小学校のユーカリ
(写真・Web画像)

▼写真 UK-003
広島城跡の被爆ユーカリ
(写真・Web画像)

